

株式会社 野上技研



代表取締役
野上 良太

茨城県
常陸大宮市泉1136-3

1970年(昭和45年)設立
0295-53-2188

<http://www.nogami-gk.co.jp/>

多様な精密加工を支える
高い研削加工技術

創業時より培った研削加工技術を基に、精密刃物・各種超精密治具・金型等の製作やプレス加工を行う。ワイヤーカット加工後、研削加工を行うことで、より高い精度を追求し、耐久性向上や品質安定等を実現。

超精密研削加工でより高い精度を追求

同社が創業時から培ってきた超精密研削加工技術が、精密刃物、精密プレス部品、超精密治具・金型の高精度な製品製作を可能にする基盤となっている。平行・直角精度は10,000分の5mmと比類のない精度を保証。これらの技術は、大手工作機械メーカーにも認められ、標準バイスに採用されている。液晶テレビ・プラズマテレビには同社の技術が不可欠で、他にも自動車・電子・二次電池・医療・食品など幅広い業種で同社が製作した精密切断治具・金型が活用されている。



平行・直角精度
10,000分の5mmの
直角・平行マスター

難易度の高い精密プレス加工に積極的に取り組む

同社は、ゴマ粒大の順送金型内複合部品や微小、極薄材、特殊材など難易度の高いプレス製品に積極的に取り組むとともに、常に技術開発に挑戦している。また、顧客の製品開発段階から、これまでの豊富な経験に基づいた最適な提案を行っている。高度な設計力と熟練の精密加工技術を融合させ、ミクロン精度の金型を製作、加工時の問題を最小限に抑えた高品質な製品を製造している。



順送金型内 複合プレス品

精密抜き・精密切断治具の設計・製作

同社では、顧客の使用用途に合わせた、オーダー治具も製作。高精度かつ長寿命の各種加工治具や検査治具・ゲートカット治具など、デザインや材質の選定、機構から安全性までを考慮し提案。極少クリアランスで仕上げられた精密抜き治具は、金属箔やフィルムなどを「バリ」や「変形」なく精密に打ち抜く事が可能。



TABテープ精密編集器

株式会社 高木製作所



代表取締役
高木 章三

茨城県
ひたちなか市勝倉3433番地

1947年(昭和22年)設立
029-272-4401

<http://www.5f.biglobe.ne.jp/~takagiss/index.html>

銅の加工技術をベースに、
熱に関するユニークな
製品群を開発

銅の加工という旧来の技術を基に、水冷ヒートシンク、ペルチェ電子冷却ユニット、ゼーベック熱発電ユニットといった、熱に関するユニークな製品を開発。いずれも最高クラスの性能の上、高いシェアで国内外数百社に納入。

銅の加工技術をベースに熱に関する製品を展開

銅の加工という旧来技術をベースにしながら、半導体の冷却に不可欠な「水冷ヒートシンク」、電気でマイナス数十℃までコントロールする「ペルチェユニット」、温度差によって発電を行う「ゼーベックユニット」等、熱に関するユニークな製品を次々に開発し、高いシェアを獲得している。「水冷ヒートシンク」は国内数百社の他欧州、米、アジアの各国にも納入し、第三の発電として注目される「ゼーベックユニット」については国内唯一のメーカーである。

いずれの製品でも最高性能を追求

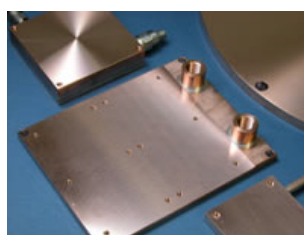
銅という熱伝導の高い素材の特性を生かし、1cm²あたり100Wに対応する「水冷ヒートシンク」、-70℃迄冷却できる「ペルチェユニット」、1ユニットで50Wを発電する「ゼーベックユニット」といずれも業界最高クラスの性能を実現している。

堅実な経営と独自の営業活動

様々な開発を行いながらも、堅実な経営に心がけて、平年の利益で内部留保を貯え、不景気に備えている。また、従業員を大切にし、持家を建てたり子供を大学に行かせたりということを社員共通の目標としている。また販売が独特で、営業マンをおかずにインターネットや雑誌広告を通じた宣伝により毎年100社に上る新規顧客を獲得している。



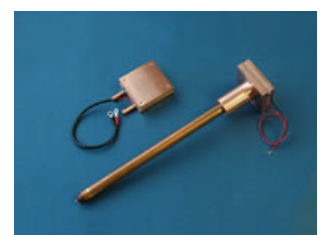
銅部品



水冷ヒートシンク



ペルチェユニット



ゼーベックユニット